

音楽と出会う好機をつかまえよう

今回のインタビューにご登場いただいたのは、二宮裕子先生。4月上旬に東京と名古屋で開催された徹底研究(本誌 P4 ~ P5 参照)に出演した関本昌平さんの指導者でいらっしゃる。この公開レッスンとコンサートが東京と名古屋で開かれた約一週間、二宮先生、マカロフ先生、ガブリリユクさん、関本昌平さんとご一緒させていただいた。

世界的チェリスト、ヤーン・シュ・シュタルケル氏と。



レッスンで出会う音楽

「今回は、本番前に、サーシャ(ガブリリユクさんの愛称)と関本君の2台ピアノの練習をやりましたでしょ、素晴らしい先生とすごい生徒さんの、指導やその反応を間近で見られて幸せでした。」

早朝に成田空港に到着したマカロフ先生とガブリリユクさんは、午後から早速練習を始めた。初合わせが本番2日前というハードスケジュールだが、それほど間近に控えても、『ゆっくり』さらうことを徹底していた練習が印象的だったそうだ。

「“あのガブリリユク”が、ショパンの作品 10-1などを、タカ、タカ、タカ、タカ・・とゆっくりペダルなしでさらうのを、マカロフ先生が忍耐強くじっと傍で見ているんですね、指導者は、そういう基本練習の大切さを十分に理解しながら、ともすればやり方だけ教えて『あとは一人でやってね』と言いたくなるものだけど、マカロフ先生はずっと見ている。そういうのが身にしみているから、サーシャは、関本君が本当のテンポで弾きたいのを制して『Slow, slow』、ゆっくり弾こうって言うんですね。」

「今回に限らず、公開レッスンは大変役に立つ

と思います。桐朋学園でも素晴らしい先生が世界中からいらっしゃいますけど、出来る限り聴きに行くようにしています。また、例えば桐朋にはヴォスクレセンスキー先生など優秀な先生方がいらっしゃいますが、自分の生徒がレッスンを受ける時は、どうしても都合がつかない時以外、絶対に見学しています。『こんな考え方があるのか』とか非常に勉強になるので、生徒だけで行かせて、指導者が見に行かないのは、猛烈にもったいないと思う。」

トリオで出会う音楽

アンサンブルをやること、聴くことも勉強になるという二宮先生。小さい頃から合わせる楽しさを教えてくれたのは、かの齋藤秀雄先生だ。

「例えば、ピアノは呼吸を意識しなくても、ポン、と指に鍵盤を当てれば音が出ますね。でも大勢で演奏する時は皆で呼吸をスーッとあわせて、そして音楽が始まる。音楽をつくる息遣いは室内楽をやりながら知らずに身についたのだと思います。ほかには、トリオの経験で弦を知ることによって、音を伸ばしていくということを学びましたよ。それは鍵盤楽器であるピアノでは体感しにくいこ

写真下:名古屋での打ち上げで、マカロフ先生の挨拶を通訳。「ロシア語も日本語もできなくていいから英語を勉強するべきだと思いません。世界中どこでも困らないから。言葉の上手い下手も耳の鍛え方と関係があると思う。特に歌の人は言葉を習得するのが得意ですね。」



写真上:桐朋学園10周年記念演奏会の楽屋にて。左からヴァイオリニストの二宮夕美さん(フィラデルフィア管弦楽団に所属し、カーティス音楽院教授。サイトウキネンオケメンバーでもある。二宮先生の義理の妹さんである。)、二宮先生、チェリストの岩崎洸さん(ジュリアード音楽院卒、米サザンメソディスト大学教授)。みな齋藤秀雄先生の薫陶を受けた。

写真左:アメリカに滞在中に活動していたジャパン・トリオ。左から、ヴァイオリニストの松田洋子氏、二宮先生、チェリストの堤剛氏(米インディアナ大学教授、サントリー音楽財団理事長)。全米各地で演奏した。



となので、肥やしになったと思います。齋藤先生の素晴らしかったと思うのは、そういうことを訳の分かっていない子どもの頃からたくさんやらせたということだと思います。月謝も取らずにそれは熱心に教えて下さいました。」

日本の音楽教育のレベルを高めよう、と育てて下さった齋藤先生と使っていた楽譜には、書き込みがぎっしりあり、今でも宝物だそうだ。

コンサートで出会う音楽

「日本ではマイナーだけど、室内楽は特に弦楽四重奏を聴くと勉強になると思います。ただし一流の上手なのを選んで。ジュリアード音楽院では、ウェンズデイ・コンサートというのがあって、世界のトップレベルであるジュリアードカルテットなども演奏していました。生徒たちは毎週『当然行くものだ』と思って、エンジョイしていた。ピアノリサイタルだからピアノ科の生徒だけ来る、というわけでもなく、バレエの生徒も来たりしていました。」

今でも頻繁にコンサートに出かける二宮先生だが、いい演奏会を見つけると、チケットをまとめて買い、生徒に声をかけるそうだ。

『行く?』と言うと、必ず『行く!』と言うのね。だから行きたくないわけではないのだけど、切符を買うこと、情報を集めることに怠けている学生が多いんじゃないかなと思う。」

二宮先生のコンサートの選び方は?と尋ねると「人で選びます。“時の人”に興味がある。」

「何が違うのだろう、とコンサートを聴いていつも思います。小澤征爾さんや、ロストロポーヴィチ、何回も聴いているけれども、同じ曲を聴いても、ほかの人と違うんですね。答えは簡単に出ないけれども、一生懸命考えています。」

二宮 裕子 Yuko Ninomiya

Profile

桐朋学園高校音楽科卒業後、ジュリアード音楽院にて研鑽を積む。第29回日本音楽コンクール、アスペン音楽祭ピアノ・コンクール、エオリアン・ピアノ・コンクールで第1位を受賞。

高良芳枝、夏目鏡子、井口秋子、レオニード・コハンスキー、マックス・エッガー、ペヴェリッジ・ウェブスター、レイモンド・ハンソンの諸氏に師事する。

長い米生活の内、コネチカット州立音楽大学ピアノ部長教授代理を務めるなど後進の指導にあたりながら、堤剛、数住岸子と共に JAPAN TRIO メンバーとしても、ヨーロッパ、アメリカ全土で活躍。帰国後も、リサイタルやNHK交響楽団などの共演、NHK・FMへの出演等、広範囲に活動。現在、桐朋学園大学講師。(社)全日本ピアノ指導者協会理事、コンクール事業部長。

